

プログラム番号	06024
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京工業大学		
②学長名	相澤 益男		
③所在地	〒152-8850 東京都目黒区大岡山二丁目12番1号		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務部留学生課・留学生課長	
	担当者氏名	大川 晴美	e-mailアドレス ryugakusei@jim.titech.ac.jp
	電話・FAX番号	03-5734-3027, 7667・03-5734-3677	
⑤ホームページ URL	http://www.titech.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	667人(うち、国費留学生 294人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	東工大-清華大大学院合同プログラム(ツィニングプログラム)
②プログラムの形態	修士課程(東工大2.5年間、清華大3年間)+博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻
	(所在地)神奈川県横浜市緑区長津田町4259
④連携大学・研究科・専攻名	東京工業大学・大学院理工学研究科・物質科学専攻、材料工学専攻、有機・高分子物質専攻、電気電子工学専攻、電子物理工学専攻 東京工業大学・大学院生命理工学研究科・分子生命科学専攻、生体システム専攻、生命情報専攻、生物プロセス専攻 東京工業大学・大学院社会理工学研究科・人間行動システム専攻、価値システム専攻、経営工学専攻、社会工学専攻 清華大学(中国)・材料工程系、化学工程系、生物科学系、医学院、公共管理学院、法学院、人文社会科学学院
⑤受入れ学生数	30人(修士24名、博士6名) (うち研究留学生優先配置人数:修士8人、博士2人) (うち日本人学生数修士12人、博士3人)
⑥担当教員数	合計174人(うち専任:133人、兼任:39人、非常勤:2人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院生命理工学研究科・研究科長
	研究科長名 広瀬 茂久

【3. プログラムの内容】

【プログラム概要】

21世紀前半に世界一の超大国となる躍進中国と、アジアを牽引してきた日本とが、最先端の科学技術分野でがっちり手を結び、信頼ある協力関係を構築することは、両国の産業経済文化の発展はもとより、人類世界に多大な貢献を果たすであろう。それには、両国の言語・文化・社会に通暁し、世界的に活躍できる人材が必要である。本プログラムは、中国の清華大学、日本の東京工業大学の、両国トップの理工系総合大学が手を携え、この目的にかなった人材を、共同で育成する合同プログラムである。

【プログラム内容】

東京工業大学清華大学大学院合同プログラムは、ナノテクノロジーコース、バイオコース、社会理工学コースの三つの先端学際領域において、両大学に在籍する日中の学生を教育し、学位を授与するツイン・プログラムである。本プログラムの授業は、原則として日本語、中国語を用い、必要に応じて英語を用いる。

1)カリキュラム

本プログラム修士課程の学生は、両大学の学籍をえ、両大学からそれぞれ所定の単位をえて、両大学で研究を行ない、両大学に論文を提出して双方の学位を取得する。両大学は共同で、両大学共通の授業を数科目開設し、双方の単位に参入する。残りの単位は、それぞれの大学で取得する。

本プログラム博士後期課程の学生は、両大学で研究を行ない、いずれか一方の大学に論文を提出して博士の学位を取得する。

本プログラムの日中の学生のため、十分な中国語／日本語の予備教育を行なう。

本プログラムの学生は、両大学の指導教員がペアを組んで指導し、両大学の間を移動して研究や論文制作を行なう。

2)参加専攻

- ・ナノテクノロジーコースに参加するのは、東工大理工学研究科の5専攻／清華大材料科学と工学系の関連する専門
- ・バイオコースに参加するのは、東工大生命理工学研究科の5専攻／清華大化学工程系、生物系、医学院の関連する専門
- ・社会理工学コースに参加するのは、東工大社会理工学研究科の4専攻／清華大公共管理学院、人文社会科学学院、法学院の関連する専門

3)標準的な学習スケジュール

2004年に清華大と結んだ協定書による合同プログラムの標準的な両大学間の移動と卒業までのスケジュール(修士課程)は、以下の通り。

	清華大学生	東工大学生
2004.3	清華大入試 出願資格は、学部卒業見込みで、清華大学大学院の入学資格を得ているもの	
2004.6	東工大大学院への願書を提出	
2004.8	東工大入試(国際大学院に準じる取り扱い)	東工大入試 出願資格は学部卒業見込みまたは学士号を持つもの
2004.9	清華大入学 清華大で、合同プログラムの講義、研究が始まる	
2004.12	東工大大学院に留学を申請	清華大大学院に留学を申請。筆記試験の免除

		を申請できる。
2005.3		学部卒業
2005.4	東工大入学の手続き 清華大で講義、研究を続ける	東工大の大学院に入学した後清華大に移動して入試の面接を受ける。清華大で講義、研究が始まる。
2005.9		面接に合格した者は清華大大学院に入学の手続きを行う 清華大で講義、研究を続ける
2006.4	東工大に移って講義、研究を続ける	東工大に戻って講義、研究を続ける
2007.2	東工大で論文発表	東工大で論文発表
2007.4	清華大に戻って研究を続ける	清華大に移って研究を続ける
2007.7	清華大で論文発表、学位授与	清華大で論文発表、学位授与
2007.9	東工大で学位授与	東工大で論文発表、学位授与

その後、清華大の修士在学年数や、東工大の学則改正があったので、各コースごとに協議し、来日時期を早める新しいスケジュールに移行する準備をしている。
博士後期課程は、研究の都合に応じて、ケースごとに決めることとなっている。

4) 両大学が共同で開設する科目

2006年度、両大学が共同で開設した科目は、つぎの通り。

コース	ナノ	バイオ	社会理工学
科目	量子物理特論	生物学特論	科学技術と現代社会特論
	ナノ材料科学特論	生物化学特論	経営工学特別演習第一
	ナノ材料電子	分子生物学特論	
	ナノ材料計測	生物工学特論	
	ソフトマテリアル	生体材料工学	
	量子化学特論		

5) 合同プログラム清華大オフィス

合同プログラムの両大学学生をサポートし、集中講義派遣や中期滞在の教員の支援をするため、また連絡のため、清華大に常駐の事務補佐員を置いて、清華大オフィスを開設している。

6) フォローアップ体制

定期的に、各コースの教員が分担して、学生の個別の進路や研究生活の相談を行ない、両大学の指導教員と連携して、問題の発見や解決にあたっている。全学の体制として、留学生センターおよび学生支援センターも留学生の修学相談やメンタルケア、キャリアサポートなどの支援を行なう。また、コース修了後も留学生の帰国後のケアや継続的な指導を実施する。

【募集対象国・対象大学、募集・選考方法】

募集対象国・対象大学 中国・清華大学(入学予定者を含む)

募集方法 修士課程の場合、清華大学において合同プログラムに入学する学生のなかから、学業成績、研究能力、英語・日本語の学力その他を評価して、東工大合同プログラムの選考委員会が、成績上位のものから順に定員まで候補者を決定する。博士後期課程の場合、清華大学の博士課程に入学する予定(または在籍)の学生に向けて公募を行ない、清華大側の提供する資料をも参考にしつつ、東工大合同プログラムの選考委員会が、成績上位のものから順に定員まで候補者を決定する。